

単収 200kg 以上、2等級以上を目指して

湿害・干ばつ対策の徹底と適期防除で 収量・品質向上

1 排水・湿害対策

- 1 か月予報（6/20～7/19）では、降水量は平年並の予想であるが、梅雨期間の豪雨に備え浸水被害対策や湿害対策を徹底する。
 - 明渠に「つまり」や「くずれ」がないか確認し、確実に排水路に繋げる。
 - 畝間を明渠に繋げる。
 - 暗渠栓、水尻を開放したままにする。
- 湿害による葉の黄化や生育不良の症状が見られた場合、排水対策を徹底した後、速効性肥料を窒素成分で 2～3 kg/10 a 追肥し、培土する。

2 干ばつ防止対策

- 3 か月予報では 8 月に高温が予想されているため、干ばつが予想される場合は、梅雨明け後は暗渠を閉め地下水位を維持する。
- (1) 暗渠栓の管理
 - 排水の良いほ場では、梅雨明け後に暗渠栓を閉め、地下水位を維持する。
 - まとまった降雨があった場合は、速やかに暗渠栓を開け、排水に努める。
- (2) 畝間かん水の実施（条件：排水の良い圃場※ 1 日以内に地表水を排水できる）
 - 畝間かん水の目安
 - 高温・少雨で晴天が 2 週間以上続いた場合
 - 最頂葉の小葉が直立し（図）、ほ場全体で葉の裏面が目立ってきた場合
 - 夕方からかん水し、ほ場全体に行き渡ったらすぐに排水する。
 - 大区画ほ場は数日に分けてかん水する（水口付近の湿害防止）。



図 かん水のめやす（直立した小葉）

3 雑草対策

○降雨の影響で中耕・培土が遅れる又はできない場合は、雑草対策を優先し生育期処理除草剤を適正に使用する。

- 全面散布できる茎葉処理除草剤（イネ科用除草剤、広葉用除草剤がある）
- 畦間散布用の非選択制の茎葉処理除草剤（大豆にかけないように注意！）
- 畦間・株間散布用の茎葉兼土壌処理除草剤

○中耕・培土は、開花始期（7月20日頃）までに終わる（生育抑制・落花・落莢防止）。

○帰化アサガオ類が発生している場合は、除草の徹底と被害拡大防止に努める。除草剤散布、中耕・培土を実施しても雑草が残った場合は、早めに手取り除草する。



帰化アサガオ類は、つるが発生する前に、除草しましょう。

4 病虫害防除——葉焼病、ウコンノメイガ、紫斑病、マメシンクイガ

(1) 葉焼病

○里のほほえみで開花期頃（7月下旬頃）に発生が確認されたら防除する。

(2) ウコンノメイガ(ハマキムシ)

○播種期の早いほ場、葉色の濃いほ場で発生しやすく、7月中下旬の降水量が多いと発生が多くなりやすい。

○7月下旬に1株平均2つ以上の「葉巻」が確認されると、防除が必要となる。「葉巻」の発生初期（7月下旬～8月上旬頃）に早めに防除する。

(3) 紫斑病

○防除効果の高い開花期4週間後頃に防除する。薬剤散布を複数回実施する場合は、開花期3週間後頃または5週間後頃に追加で散布する。

(4) マメシンクイガ

○連作ほ場や前年に多発したほ場で発生しやすい。

○例年多発生しているほ場では、防除効果の高い8月下旬と9月上旬の2回、莢に薬剤がよく付着するよう留意し防除を実施する。

農薬の使用にあたっては、ラベルに記載されている使用基準や注意事項・使用方法をよく読み、内容を遵守して使用しましょう。周辺への飛散に注意！！